
野田高等学校 三話

あき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

野田高等学校 三話

【ZPDF】

Z05920

【作者名】

あき

【あらすじ】

野田高等学校、三話です。
では、どうぞ。

会計 「はあ・・・・。前回は、えらい顔にあつた・・・・。どうしよう。僕、生徒会

やめようかな?」

副会長 「ふふふ・・・・。里川君。一人だけ逃げたら、どうなるか分かっているわよね?」

会計 「失礼しました。ジョークです。そんな怖い眼で見ないでくださいよ。」

書記 「どうせあいつは今年で卒業なんですから、少しごらりと我慢しないよ、甲斐性なし。」

会計 「それはそうだけれ・・・・って、今、生徒会長と僕の悪口が聞こえたんだけど!」

副会長 「最近、藤の態度が悪すぎると思っていませんか?!

少しごらりと注意してくださいよ!――先輩でしょ!――」
副会長 「なに言つてての?正常に機能しててるじゃないの。比利

を注意すればいいの?」

会計 「だめだ。もうここには僕しかまともな生徒がいない・・・・。

」
書記 「所で、生徒会長がまだ来ていませんが。」

副会長 「あら、本当ね。この思いつき小説ことひどひ飽きたかしら?」

会計 「思いつきだつたとしても、二話まできたんだから少しごらり認めてやつてもいいじゃ

ないですか?パソコンに触れるのも、週一回ぐりこなんだし・・・・。」

副会長 「作者の事情と私達の事情は、なんの関係もないわ。そもそも、じんなの

続くわけないじゃないの。」

会計 「なんでそんなに否定的なんですか！――続かなかつたら、僕ら死ぬんですからね！――！」

小説という文字の世界の中だけだけど、死ぬんですからね

?――！」

書記 「死を恐れる奴に、大義なんか果たせない。」

会計 「僕らが死ぬの怖くなくなつたら、風船以上に鮮やかに破裂してしまいますよ！――！」

副会長「だつて、なにを伝えたいのかよく分からんんですもの。」

書記 「議題とか言って、結局いつも生徒会長の気まぐれにつき合わされているだけです。」

会計 「まあ、それは否定できないけども……。」

生徒会長「おー。すまん、遅れた。」

副会長「あら生徒会長。ずいぶんと早かつたですね。もっとゆっくりしていくもよかつたのに。」

会計 「さりげなく生徒会活動がやりたくないつていつていますね。・・。」

生徒会長「実はな、さつき生物の先生、佐々名に捕まつてな。間一

髪で逃げてきた所だ。」

会計 「間一髪つて・・・いつたい、どうして逃げてきたんですか？」

生徒会長「知らんのか？めがね馬鹿。奴に捕まつた奴は、実験体にされ、改造されてしまうんだぞ。」

副会長「うふふふ・・・改造されて、もつとまともにしてもうればよかつたのに。」

書記 「いつそう、別人にしてもうればよかつたのに。」

会計 「ひどすぎる・・・いくら生徒会長が、わがままで最低な人だからつて・・。」

生徒会長「いいんだ、会計君。これも、彼女達の愛情なんだから。」

会長は、むしろうれしいよ。仲間達にここまで愛されて。

会計 「すいませんでした、生徒会長。少しでもかわいそうだと思つた僕が間違つていました。」

ガガガガガガガガガガガガ

も思つてこぬのか——。」

ない乗り物に乗った

生物の先生「部活動などといつ若人の一時的な感情の高ぶりによる恥ずかしいもののために

私が屈するとでも思つてこらのかあ！――――

愚かだよ、愚か者だよ君はあああ！――――――あはは

! . ! . ! . ! . ! . ! .

書記 「生徒会長。今日の議題は。」

生徒会長 ふむ 今日の議題は ・ ・ ・ ・

生物の先生「おい！人の話は最後まで聞けい！！」これでも私は東大出身の人間として超エリートな

ありがたい先生だぞ！！！

副会長「生徒会長、いい加減、変なお友達を連れてくるのはやめてください。」

迷惑ですし、邪魔です。」

会計 「うわあ・・・今回、僕もそれは同感です。」

生物の先生 なんだとさ！！！ 豊様会議は どんなは頭のいたれた者でもフォローするのが

役割であり、存在意義だろうが！――！私を助ける

会計 「この先生最悪だよ……生徒の存在意義を、勝手に決めやがったよ……！」

書記 「生徒会長。今日は中止でもいいんじゃないでしょうか？」

生徒会長 「おっ、たまにはいいこと言つたな。えへ、それじゃ、今日の生徒会活動は中止とします。

みんなー、気をつけて帰れよー？」

生物の先生 「ま、まて！ 貴様ら、せつかくこの超ヒーローが来てやつたのだぞ？！」

会計 「質問とか尊敬の言葉とか懸挙とか、色々あるだろ？ があああああー……！」

会計 「この先生、なんか人間として根本的に間違つてるよ……！」

だれだよ、こんな壊れた奴を先生にした奴！……！」

副会長 「里川君。今はね、テストの点数がよければ、こんな性格の

破綻したカスみたいな人間でも

先生になっちゃうのよ？ 覚えておいてね。」

会計 「副会長。けど、こんなナルシストの塊みたいな人を先生にだなんて……。」

いぐらなんでもあんまりじゃあ……。」

生徒会長 「いいんだよ。こんな奴でも、教員免許もつてるんだから。」

適当に相手をして、点数もらえば。」

会計 「いや、今適当に相手もしてないし、それどころか相手をしだくなくなつて

生徒会活動を注視にしましたよね？！」

書記 「こんなのは、相手をするだけ時間の無駄です。一緒に、同じ大気を吸い込んでいるだけでも

吐き気がしているのに。」

生物の先生 「き、貴様らあ……わつきから聞いていれば、私に対する侮辱ばかり！……！」

くやしい！……！」

こうなつたら、私と勝負をしろお……！」

会計 「あ～あ・・・なんか、怒っちゃいましたよ？」

「どうするんですか？」

生徒会長「どうするといわれてもな。今日の活動は中止だし。このまま、帰つてもいいんだけど。」

副会長 「うふふ・・・。生徒会長、ここは私にまかせてください。」

「生徒会長「おおつー行つてくれるか、副会長。安心しり、お前の骨は拾つてやる。」

副会長 「生徒会長に拾われるくらいだつたら、自分で拾います。」

書記 「むしろ、生徒会長の骨を捨てたほうが・・・。」

会計 「なんで死ぬこと前提なんですか！――！」

生物の先生 「やるのか！やらないのか！？はつきりしる――。」

副会長 「うふふ・・・せつかちな先生ね・・・。」

会計 「・・・副会長、大丈夫でしようかね・・・。」

書記 「大丈夫だと思いますよ。だつて、副会長・・・。」

生徒会長 「あの佐々名が、哀れだと思ったのは初めてだぞ。」

会計 「？・・・どういう意味ですか？」

「あつ！副会長が、佐々名先生の乗つてきた変な物体に・・・

・・・・・・・先生と、どこかに行つちやいましたね・・・

」
生徒会長「終わつたな。佐々名の奴も。」

書記 「生徒会長。死んだ人のことをいっても仕方ありません。早く帰りましょう。」

生徒会長「それもそうだな。今日は、来客があるから、自由時間にしようとしてたんだが。

手間が省けたな。」

会計 「いや、なんで佐々名先生を殺してるんですか！――！」

「つか、あんた元々今日の活動やるつもりなかつたんですか？！」

生徒会長「やあ～～～。」

会計「ああ～～～、つて！～！なんて無責任な生徒会長なんだ・・・。」

「ひつして、結局わけの分からぬまま今日の生徒会活動は終わつた。」

後に分かつたことだが、佐々名先生はこの日の一週間後に、隣町の川岸で発見されたらしい。

佐々名先生はテレビの取材にたいして、「悪魔が！悪魔があああああああ～～～！」と、

狂氣的なまでのビビリな姿をさらしていた。

世間では、ノイローゼになり、それからみえた幻覚によつて川に落ちたのではないかと結論付けられた。

しかし、僕は知つていた。

先生は、ノイローゼなんかじゃない。犯人は・・・。
副会長「あらまあ、怖いわねえ～。あの先生、ノイローゼですか？」

生徒会長「・・・。」

書記「・・・。」

会計「・・・。」

会計（・・・副会長にだけは、逆らわなによじようにしそう・・・）

「これも、後から分かつたことだが、どうやら副会長は、殺人体術の達人だつたらしい。」

生徒会長「つて、今回はこれで終わりかよ。後半、ほとんど会計しかしゃべつてねえじやん。」

会計「あんたな・・・。」

生徒会長「といつわけで、次回からは、生徒会長探偵、の始まりだ！！！」

会計

(後書き)

ひとつ、二話です。 (- - :
これがひむか、がんばります！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0592o/>

野田高等学校 三話

2010年10月11日04時29分発行